

2019年（令和元年） 6月14日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

## ■ 概況

5/30~6/5のNYMEX・WTIは、51.68~56.59ドルの範囲で推移した。

6月6日は、米国の対メキシコ姿勢軟化の観測が浮上、制裁関税の発動見合わせが予想されることから、反発した。7月限終値は前日比0.91ドル高の52.59ドル。

週末7日は、サウジのファリハ・エネルギー相が協調減産を巡り、OPECでは延長がほぼ確実で、問題は非加盟国だと発言したことから、本年下期の減産継続が確実視されるとして、大幅続伸した。また、ペカーヒューズ社発表の米国稼働リグは789基の前週比11基減と昨年2月2日以来の低水準となった。7月限終値は前日比1.40ドル高の53.99ドル。

週明け10日は、ファリハ・エネルギー相が協調減産延長に合意していないのはロシアだけだと発言、他方、ロシアのノバク・エネルギー相は延長がなければ30ドルに下落する可能性があるとしつつも、より分析を行うため、合同会議開催を7月2~4日に延期すべきとしたがこうした不協和音を背景に反落した。7月限終値は前週末比0.73ドル安の53.26ドル。

11日は、ノバク・エネルギー相がロシアの協調減産延長賛成を示唆、また、世界各地の株価の全面高を背景に買い先行で始まったが、米国エネルギー情報局(EIA)月報が、2019年の世界原油需要の伸びの見通しを120万b/dと前月比20万b/d下方修正したことから、売り優勢に転じ、ほぼ横ばいで終わった。7月限終値は前日比0.01ドル高の53.27ドル。

12日はEIA在庫週報で、原油が前週比220万バレル増と市場予想(50万バレル減)に反した2週連続の積み増しで、約2年ぶりの在庫水準に達したことなど、供給過剰感が強まり、

大幅反落した。7月限の終値は前日比2.13ドル安の51.14ドル。

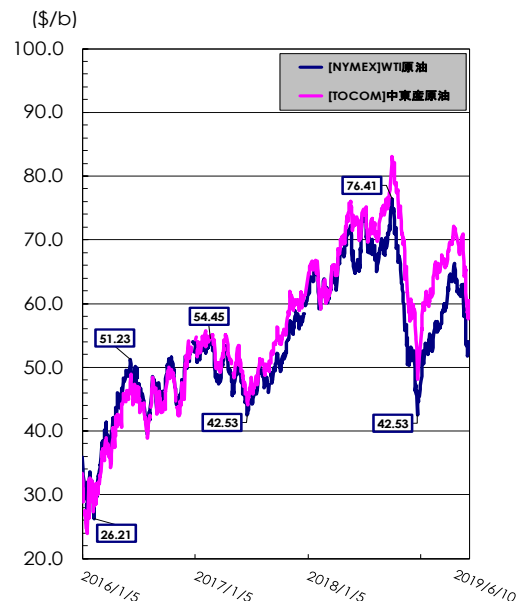
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は5月30日~6月5日の間59.70~67.70ドルの範囲で推移した。6月6日59.10ドル、7日60.70ドル、10日61.90ドル、11日61.30ドル、12日60.00ドルで推移した。

為替は5月30日~6月5日の間107.92~109.62円の範囲で推移した。6月6日108.40円、7日108.52円、10日108.52円、11日108.51円、12日108.59円で推移した。

財務省が6月7日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、5月中旬の原油輸入平均CIF価格は、51,095円/klで、前旬比310円高、ドル建てでは72.84ドルで前旬比0.71ドル高。為替レートは1ドル/111.53円だった。

そのような中で、6月10日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.0円の値下がり、軽油も同0.9円の値下がり、灯油は同8円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンと軽油は4週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。この週(6月第2週)の原油コストは大きく値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.5円の引き下げとなった。

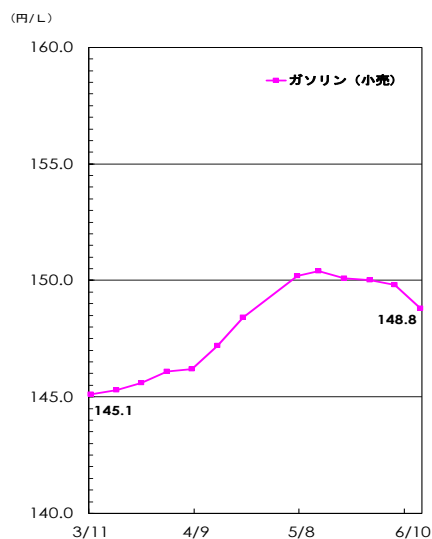
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/2 ~ 6/8	3,016 ▲140	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	77.0 ▲3.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/8	14,529 ▲792	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/10	60.46 ▲1.66	▼ -13.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/10	53.26 ▲0.01	▼ -12.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月中旬	72.84 ▲0.71	▲ 2.08
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	51,095 ▲310	▲ 2,534
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	111.53 ▲0.39	▼ -2.43
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/10	109.52 ▼-0.18	▲ 0.89



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/2 ~ 6/8	853 ▼ -8 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	858 ▼ -8 ▼ -	
	輸出	"	24 ▲ 24 ▼ -	
	在庫	6/8	1,544 ▼ -30 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/4 ~ 6/10	58.7 ▼ -4.3 ▼ -8.8	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/4 ~ 6/10	52.2 ▼ -4.0 ▼ -11.6	
	(TOCOM/中部)	6/10	55.1 ▲ 0.9 ▼ -8.9	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/10	148.8 ▼ -1.0 ▼ -3.2	

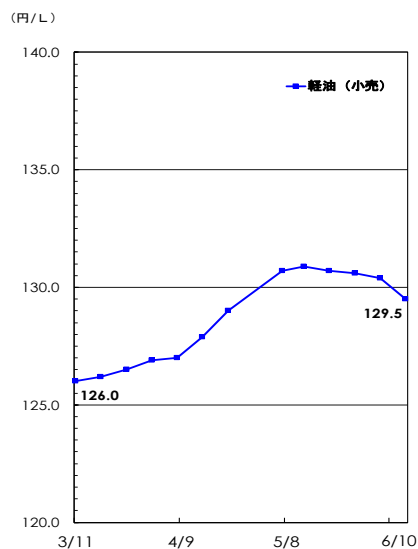
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

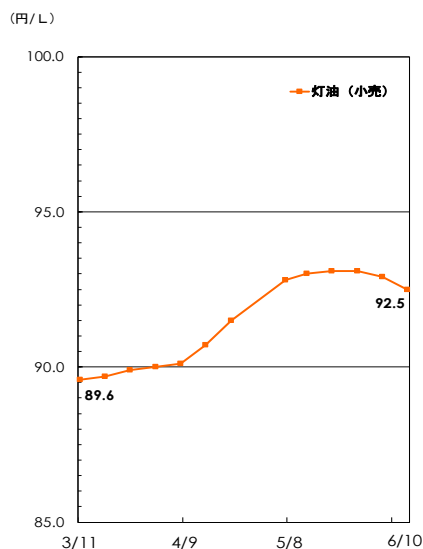
軽油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/2 ~ 6/8	779 ▼ -67 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	648 ▲ 75 ▲ -	
	輸出	"	51 ▼ -368 ▲ -	
	在庫	6/8	1,385 ▲ 80 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/4 ~ 6/10	63.1 ▼ -2.7 ▼ -6.0	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/4 ~ 6/10	63.6 ▼ -2.3 ▼ -5.2	
	(TOCOM/中部)	6/10	- - -	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/10	129.5 ▼ -0.9 ▼ -0.9	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比
需給	生産	6/2 ~ 6/8	164 ▲ 3 ▲ -	
	輸入	"	n.a. n.a.	n.a.
	出荷	"	140 ▲ 87 ▲ -	
	輸出	"	12 ▲ 12 ▲ -	
	在庫	6/8	1,451 ▲ 12 ▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/4 ~ 6/10	61.4 ▼ -3.8 ▼ -6.5	
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	6/4 ~ 6/10	55.1 ▼ -3.5 ▼ -11.6	
	(TOCOM/中部)	6/10	57.2 ▼ -0.8 ▼ -9.3	
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/10	92.5 ▼ -0.4 ▼ -0.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月12日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比220万バレル増と市場予想(50万バレル減)に反した2週連続の積み増しで、2017年7月以来の在庫水準に達したこと、前日のEIA月報で2019年世界需要が下方修正されたことから、供給過剰感が強まり、大幅反落し、本年1月14日以来の安値を記録した。在庫週報によれば、ガソリンが同80万バレル増、中間留分は同100万バレル減となった。7月限の終値は前日比2.13ドル安の51.14ドル、8月限の終値は前日比2.15ドル安の51.37ドル。

EIAによると、6月10日時点のガソリンの小売価格は、前週比7.5セント値下がりの1ガロン2.732ドル(78.9円/ℓ)、ディーゼルは同3.1セント値下がりの3.105ドル(89.9円/ℓ)となった。ガソリンは5週連続の値下がり、ディーゼルは3週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年6月2日～6月8日に休止したトッパー能力は71.3万バレル/日で、前週に対して1.4万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は301.6万klと、前週に比べ14.0万kl増加。前年に対しては10.1万klの増加。トッパー稼働率は77.0%と前週に対して3.6ポイントの増加、前年に対しては2.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて灯油、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.0%減、ジェット/7.8%減、灯油/1.8%増、軽油/7.9%減、A重油/25.3%増、C重油/11.3%減。今週のC重油の輸入は3.1万kl(前週比3.1万kl増)。軽油の輸出は5.1万kl(前週比36.8万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、A重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は85.8万 kl(対前週0.9%減)と3週振りで減少となり、23週連続で100万klを下回った。ジェット13.7万kl(対前週110.4%増)、灯油14.0万kl(対前週162.4%増)、軽油64.8万

kl(対前週13.1%増)、A重油17.5万kl(対前週12.3%増)、C重油20.5万kl(対前週18.0%増)。

(単位:千kl)

	今週 (6/2 ~ 6/8)	前週 (5/26 ~ 6/1)	前週比
ガソリン	858	866	▼ -8 (-1%)
ジェット燃料	137	65	▲ 72 (111%)
灯油	140	53	▲ 87 (164%)
軽油	648	573	▲ 75 (13%)
A重油	175	156	▲ 19 (12%)
C重油	205	174	▲ 31 (18%)
合計	2,163	1,887	▲ 276 (15%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月8日時点の在庫は、灯油、軽油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは154.4万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては21.4万kl少ない。

灯油は145.1万kl、前週差1.2万kl増。前年に対しては7.6万kl少ない。

軽油は138.5万kl、前週差8.0万kl増。前年に対しては17.1万kl少ない。

A重油は74.9万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては2.6万kl少ない。

C重油は192.7万kl、前週差1.7万kl減。前年に対しては24.6万kl少ない。

(単位:千kl)

	今週 (6/8)	前週 (6/1)	前週比
ガソリン	1,544	1,574	▼ -30 (-2%)
ジェット燃料	836	907	▼ -71 (-8%)
灯油	1,451	1,439	▲ 12 (1%)
軽油	1,385	1,305	▲ 80 (6%)
A重油	749	762	▼ -13 (-2%)
C重油	1,927	1,944	▼ -17 (-1%)
合計	7,892	7,931	▼ -39 (-0.5%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月4日～10日の原油価格は、前週比で大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりがりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、6月4日～10日の間、ガソリン111～114円台で激しく値下がり、軽油62～65円台で激しく値下がり、灯油60～63円台で激しく値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン111～112円台でわずかに値上がり後値を戻し、軽油64円台でほぼ横ばい、灯油53～54円台で値下がり後値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン105～107円台で値下がり後激しく値上がり、軽油63円台でやや値下がり、灯油54～56円台で出入り後値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社3.5円の引き下げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月4日～10日の製品スポット市況は、5月28日～6月4日平均と比べ、全油種・全取引でとも激しく値下がりした。

6月第3週(6/13～6/19)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6/4～6/10千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは4.3円の値下がり、灯油は3.8円の値下がり、軽油は2.7円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは5.0円の値下がり、灯油は4.0円の値下がり、軽油は3.1円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが4.0円の値下がり、灯油は3.5円の値下がり、軽油は2.3円の値下がりだった。

6月第3週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社3.5円の引き下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (6/4～6/10)	前週 (5/28～6/3)	前週比
	レギュラー	58.7	63.0
灯油	61.4	65.2	▼ -3.8
軽油	63.1	65.8	▼ -2.7

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値]	今週 (6/4～6/10)	前週 (5/28～6/3)	前週比
	レギュラー	52.2	56.2
灯油	55.1	58.6	▼ -3.5
軽油	63.6	65.9	▼ -2.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/4～6/10実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▼ -4.3	▼ -4.0	▼ -4.1
灯油	▼ -3.8	▼ -3.5	▼ -3.6
軽油	▼ -2.7	▼ -2.3	▼ -2.5
A重油	▼ -2.7		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バーージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

6月10日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.0円安の148.8円、軽油も同0.9円安の129.5円、灯油は18%ベースで同9円安の1,665円(1%ベースでは同0.4円安の92.5円)だった。ガソリンと軽油は4週連続の値下がり、灯油は2週連続の値下がりだった。都道府県別には、値上がりがなし、横ばいが2県、値下がりが45都道府県だった。全国最安値は宮城県の143.9円(前週比1.5円安)、その次は埼玉県の144.0円(同1.5円安)、最高値は長崎県の160.4円(同0.3円安)であった。横ばいは高知県・佐賀県の2県、最も値下がりがりしたのは2.2円安の京都府(151.0円)だった。

先週の原油コストは大きく値下がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.0円の引き下げとなった。

今週も、原油価格は大きく値下がりし、為替レートも円高で、原油コストは大きく値下がりがりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社3.5円の引き下げとなった。次週(6月17日)のガソリン・灯油の小売価格は値下がりが予想される。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (6/10)	前週 (6/3)	前週比	直近高値	
	レギュラー	148.8	149.8	▼ -1.0	08/8/4
灯油	92.5	92.9	▼ -0.4	08/8/11	132.1
軽油	129.5	130.4	▼ -0.9	08/8/4	167.4

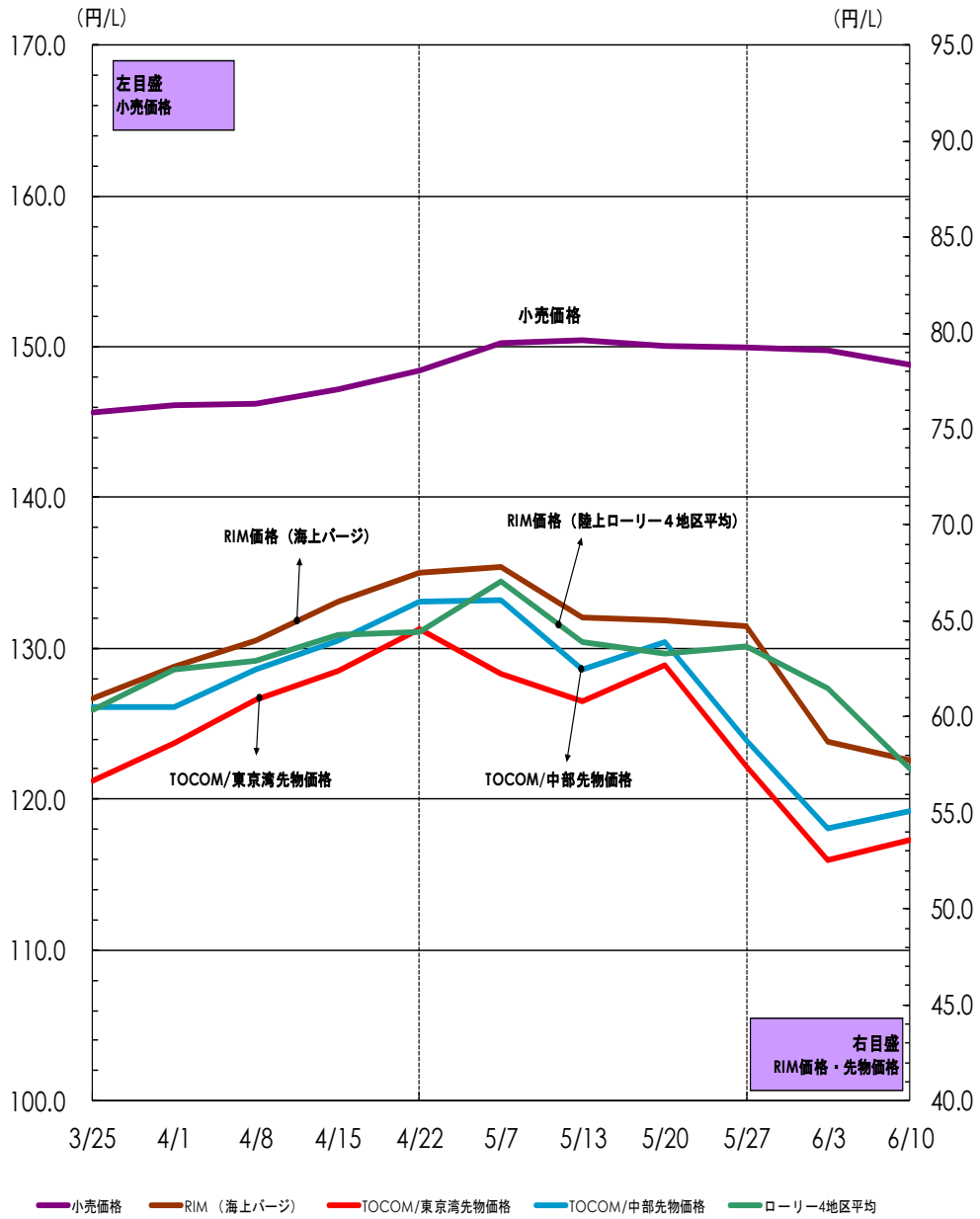
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2019/3/25 ~ 2019/6/10)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2019第11号)の公表は、6/21(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。